

新病院に向けた基本理念・基本方針等

基本理念

- 安全で親切な医療を提供します。
- 高度で良質な医療を実践します。
- 患者さんの意思と権利を尊重します。

基本方針

- 1 患者さんへのサービスに徹し、市民に信頼され親しまれる病院
- 2 地域の中核病院としての急性期医療・救急医療の充実
- 3 医療水準・医療ニーズの変化に対応し得る病院
- 4 地域の医療機関との機能分担・連携強化による圏域内での医療の確立
- 5 高齢社会に対応した保健・医療・福祉サービス支援体制の推進
- 6 健全経営の確保

診 療 機 能

1 市民を中心とする一般二次診療機能

市民を中心とした中河内医療圏の地域住民を対象とする一般二次診療機能を提供する。このため、内科、外科を中心に一般二次診療機能の整備を図る。

2 がんに対する高度診断、集学的診療機能強化による地域がんセンター化

中河内医療圏の地域がんセンター化を目指し、臓器別がんの各部位、とくに5臓器がんを中心として専門医による高度確定診断機能を整備し、治療においても手術療法、化学療法、免疫ホルモン療法等の体制強化に加えて、放射線治療も可能な治療体制を整備し、集学的治療機能を保有する。このため、内科、外科の各領域、麻酔科、放射線科の各専門医の充実を図る。

3 救急医療機能の充実・強化

(1) 循環器系疾患に対する高度診療機能

がんとともに死亡率が高く、患者も多い心疾患、脳血管疾患に対する医療として、循環器系疾患に対しても高度専門的診療機能の整備を図る。これにより、救急医療においては、心疾患において緊急PTCA、PTCR(心筋梗塞時の冠動脈血栓溶解術等)の対応が可能な診療機能を整備し、脳血管疾患についても待機手術は勿論のこと、緊急手術にも対応できる診療機能を保有する。このため、脳神経外科を新設するとともに、循環器科の充実強化を図る。

(2) 小児医療に対する機能強化

市民要望が高い小児医療については、地域の病院群輪番制とともに、24時間365日の小児救急体制を確立するための人的体制の充実と診療機能の強化を図る。このため、NICU等の整備により、未熟児をはじめとする新生児医療機能を充実し、各科スタッフ共同による妊産婦、胎児、新生児の管理を連続的かつ一体的に行う体制を整備する。

各部門別基本方針

1. 外来部門基本方針

- 1) 受診しやすく、待たせない外来をめざし、専門外来の充実、各専門医間の連携によるチーム医療の実践、予約診療の徹底、医療情報システムの構築を行う。
- 2) わかり易い外来をめざし、診療情報の開示を徹底し、相談業務の充実などをはかり、患者さんに対するきめこまかい配慮と接遇面でのサービス充実に努める。
- 3) 紹介してもらいやすい外来をめざし、地域医療連携機能を強化し、紹介率30%を目標とするとともに、あわせて患者さんの逆紹介システムの定着をはかる。

2. 病棟部門基本方針

- 1) コ・メディカルまで含めたチーム医療の実践による高度専門医療を実践する。
- 2) クリニカル・パスの積極的導入により平均在院日数17日以内を目標とし、運営の効率化とともに医療の質の保証を実現させる。
- 3) 患者さんのプライバシーの確保をはかるとともに、快適な療養環境を実現する。
- 4) 情報システム、SPDシステムの活用により直接看護業務の増大をはかり、患者さんに対してきめこまかいケアを提供する。
- 5) 病床の一元管理を推進し、病床の有効活用を図るとともに、病床稼働率95%を目標とする。

3. 薬剤部門基本方針

- 1) 調剤中心業務から薬剤管理指導業務に重点を移すこととし、全面的医薬分業を推進する。
- 2) 薬剤師はチーム医療を担う一員として、薬剤師回診や服薬指導などの臨床薬剤業務の充実をはかる。
- 3) 無菌室の設置によりIVH、抗がん剤の調製は、薬剤部にて行う。
- 4) 薬剤に関する最新情報の収集により、情報発信基地として能動的・迅速に臨床の場のニーズにあった医薬品情報を提供し、医療の質的向上に寄与する。

4 . 放射線部門基本方針

- 1) 最新機器の導入と専門医による的確で迅速な読影によって、適切な診療を推進する。また、電子化された画像情報の蓄積・分析により画像診断精度の向上と患者に対するインフォームドコンセントの支援を行う。
- 2) 画像情報の電子化を推進するために、撮影・検査機器はすべてデジタル機器の整備を図り、画像管理を一元化をする。また、総合画像診断システムを構築し、C R T 診断による完全フィルムレスを実現する。
- 3) 地域医療機関からの検査紹介患者の積極的受入、所見の迅速な報告体制を整え、また、症例検討会等を通じて地域医療の高度化に貢献する。
- 4) 高額機器・装置の稼働率向上をはかるため、運用上不断に努力する。

5 . 栄養部門基本方針

- 1) 治療の一環として食事をとらせ、食事をとおして疾病の改善に努める。
- 2) 美味しく、飽きのこない食事を提供するとともに、食べる喜びが感じられる環境づくりを行う。
- 3) 適時適温給食の提供、患者さんの嗜好の多様化などを踏まえたセレクトメニュー導入や行事食の積極的導入をはかる。
- 4) 衛生管理基準「H A C C P」を導入し、食事の質と安全を確保するとともに、効率的なサービス提供体制づくりを推進する。

6 . 内視鏡部門の基本方針

- 1) 各診療科との連携により、疾病の早期発見、早期治療を実現するとともに、患者さんの肉体的、心理的負担の少ない機器の導入などによって、苦痛の少ない検査を追及する。
- 2) 内視鏡画像の電子化を推進し、総合画像診断システムを活用しフィルムレスを実現する。
- 3) 病診連携による患者の受入体制を充実し、症例検討会等を通じて地域医療の高度化に貢献する。
- 4) 超音波内視鏡等の最新機器の導入、専門病理医が生検材料を診断するシステム構築などにより高水準の診断を実現するとともに、内視鏡下治療にも対応できる体制を整備する。

7. 手術部門の基本方針

- 1) 手術室の効率的な運用を図る。
- 2) 日帰り手術へ積極的に取り組む。
- 3) 院内感染防止の観点から、清潔管理と動線分離(人・物)を徹底する。
- 4) 手術の高度化・複雑化が急速に進む中で、安全で円滑な手術部運営を行う。
- 5) チーム医療の強化およびSPD部門からの効率的な搬送システムの確立、電子カルテシステムや画像診断情報システムの活用を行う。
- 6) 効率的運用の為に手術器材のセット化や診療材料のキット化商品の使用拡大を図る。

8. 検査部門の基本方針

- 1) 検体受取後、結果報告までの時間短縮化を図るとともに即時検査項目を充実させて迅速検査(30分検査の実現)の実施を図る。
- 2) 最新の検査機器、電子カルテシステム等を導入することにより、検査データの一元管理を行い、迅速で精度の高い検査を行う。
- 3) 検体検査に関しては徹底した効率化、省力化により検査コストの軽減を図る。

9. リハビリテーション部門の基本方針

- 1) 診療部門との連携による早期リハビリの実施を行い、患者さんのQOLの改善や早期社会復帰を強力に推進する。
- 2) 入院患者平均在院日数17日以内を目標としていることから、ベッドサイドリハビリを中心に、ベッド上動作、移動動作、トイレ、入浴動作等実際的かつ具体的なADL訓練を実施する。

10. 集中治療部門の基本方針

- 1) 入室基準と管理体制を明確にした運用を行う。
- 2) 手術部門、救急部門、検査部門、放射線部門との連携をはかり総合的な体制を確立する。
- 3) 感染予防対策の確立を行う。

11. 救急部門の基本方針

- 1) 1次から2次救急医療の受入を基本とした体制を整備する。
- 2) 救急患者については、全診療科・全部門が協力して24時間365日体制の受入を行い、重症及び複数の診療科領域にわたる救急患者に対し、高度な救急医療を総合的に提供する。
- 3) 小児救急医療体制の拡充を行う。
- 4) 八尾市消防隊との連携を密にし、「断らない救急」を実践する。

12. ME部門の基本方針

- 1) 臨床現場において診療の補助者として臨床技術の提供を行う。
- 2) 医療機器が有効に使用でき、その安全性及び信頼性が常に維持されることを目標とする。
- 3) 院内で利用される医療機器の中央管理を前提とし、特に各部門で共用可能な医療機器の中央での保管・整備・維持管理・貸出業務を行うMEセンターを設置する。
- 4) CPUの活用により医療機器の使用状況・修理履歴等を把握し、医療機器の更新を合理的に行うための判断材料を提供する。

13. 医事部門の基本方針

- 1) 患者が安心して受診できるように受付、会計の業務において、接遇教育等の患者サービスの向上を図る。
- 2) 診療報酬改定に対応するための増収策等の企画立案を迅速に行い、積極的に関係部署への情報提供及び連携を行い、診療報酬の査定減の防止、請求漏れの対策、病院収入の確保に努める。

14. 地域医療連携部門の基本方針

- 1) 病病連携、病診連携を積極的にはかり、紹介してもらいやすい病院づくりの総合窓口としての機能充実を図る。
- 2) 地域の医療従事者との交流促進等により、地域の医療水準の向上を図る。
- 3) 紹介患者比率30%を目標とし、順次紹介率の向上のための施策を実施する。

15. 施設管理系部門の基本方針

- 1) 病院の生活関連施設・設備を充実し、医療効果、患者サービス及び療養環境の向上に努める。
- 2) 医療を提供する場として常に施設・設備の安全対策を確立する。
- 3) 病院機能を維持するためエネルギー等を備蓄し、災害時においても対応可能な設備機能を保持する。
- 4) 長期的な観点に立ってより効率的な維持管理体制づくりを推進する。

16. 情報システム部門の基本方針

- 1) チーム医療の推進支援をはじめ高度な医療を実現する基盤として、電子カルテを中心とする情報システムの構築や医用画像の電子化により、医療の質的向上、患者の利便性の向上、効率的な経営管理に資する為、最適なシステム管理を行う。
- 2) イン트라ネットの構築による情報の共有化を推進し、業務処理の迅速化や正確化を図り、将来的にはペーパーレス、フィルムレスを実現させる。
- 3) 後利用システムの活用により、蓄積された情報の分析及び評価を行い、最適且つ効率的な医療の実現に資する。
- 4) 情報システムの導入により、全面的な運営システムの見直しを行い、運営マニュアルを策定する事で業務の標準化を推進する。

17. 物品管理・搬送システム（SPD）部門の基本方針

- 1) 経営効率を高める手段として、薬剤、診療材料等の物品及び滅菌物、マットレス等の再生物品を一元的に管理・搬送するシステムを構築し、より効率的な運用体制を確保する。
- 2) 院内情報システムとリンクした物流管理システムを構築し、迅速的確な物流管理を実現する。
- 3) 専門部門による在庫の中央管理を行うことで、物品の過剰在庫や不働在庫をなくし、投薬ミス防止をはじめとするリスク管理としての機能も追求する。

18. 健診部門の基本方針

- 1) 広く市民のニーズに応えるため、一般健診、乳がん・子宮がん等の婦人科健診、小児科健診等市立病院としての義務的健診に重点を置く。
- 2) 各診療部門との連携を強化し、質の高い健診をめざす。
- 3) わかりやすい結果説明と健康相談、健康指導などの実施により、継続的な受診体制を確立する。
- 4) 受診者増加のための広報活動を積極的に行う。

19. 図書室部門の基本方針

- 1) 司書による文献の適正な管理を行い、臨床研究・診療分野を中心に、病院関係者に広く利用できる運営体制を確保する。
- 2) データベースの構築により、豊富な情報量を蓄積するとともに利用者にとって簡易な検索システム・貸出システムを確立する。
- 3) EBMの推進とともに文献利用の需要が急激に高まるなかで、他病院の図書室との提携・ネットワーク化による相互利用を推進する。

20. 診療情報管理部門の基本方針

- 1) 電子カルテの導入により、病歴管理だけでなく診療情報全般の管理を行い、患者情報の一元化を図る。
- 2) 専任の診療情報管理士のもと、診療情報の効果的・効率的・安全な保管・管理・提供体制を確立する。
- 3) 各種統計資料の作成機能の充実を図るとともに、患者さんに対する院内情報の提供など、情報発信基地としての機能を追求する。

21. 医療相談室の基本方針

- 1) MSWと看護師等の協働により、患者さんの抱えている経済的・社会的・心理的問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を行う。
- 2) 患者さんの幅広いニーズに対応するため、よろず相談の窓口としての機能を発揮し、専門的な立場からの指導と、関係機関との連絡調整を密に行う。
- 3) 外来患者さんに対する診療補完機能を発揮するとともに、まず話を聴き、ニーズを引き出すことで家族にとっても相談しやすい雰囲気づくりを行う。

22．治験管理室の基本方針

- 1) 治験に参加して下さる患者さんの介助、治験を担当する医師の支援、製薬会社との応対等、当院で実施される治験を集中的に管理運営する。
- 2) 治験コーディネーターにより、市販後臨床試験まで含めた治験データの効果的な利用と管理体制を確立する。